

CSR基本方針

~本業を通して社会の課題を解決する~

コスモスモアの CSV経営	make Social Impact	
	戦略的CSR(CSV)	本業を活かした 社会と共有できる価値の創造
社会課題を解決する 仕組みづくりと実行		
act Social Good		
コスモスモアの CSR経営ビジョン	社会貢献活動	『デザイン+α』の付加価値を提供 ○人々の快適な 生活の場の創造 ○安心・安全にこだわった 資産の持続可能性の追求 ○優位性ある仕組みを創造し 環境価値を生活の場へ実現
	社会と会社の 持続可能な関係づくり	
自らが社会に及ぼす 影響への責任	自らが社会に及ぼす 影響への責任	強固なコーポレート・ガバナンス 公正な取引と法令遵守によるリスク管理の徹底 健全な財務基盤の構築
	「従業員の成長と動機付け」 をメインテーマとした 誠実・公正な企業活動	ユニバーサルデザインの実現 (人権/働きやすい環境/障がい者雇用/ 環境問題への取組/地域コミュニティへの参画)
企業理念	私たちは満足を超える感動を目指します	
ステークホルダー	お客様・株主・ビジネスパートナー・社員・社会	

目指すべき状態

現事業に根差した戦略的CSR活動を実践している状態

CSV視点（収益性+継続性）を念頭に置き、
より社会課題の解決が促進されるよう、事業を発展成長させてゆく

sustainability report of cosmos more

サスモア

2018

デザインのその先を見据え
新しい価値を創造する

特集 01

クロストーク

枝廣 寿雄 (株式会社コスモスモア代表取締役社長)

×

荒 昌史 (株式会社HITOTOWA代表取締役)



特集 02

デザインが社会にできること

MIFA Football Park仙台、WILD BEACH 仙台
31VENTURES Clipニホンバシ

特集 03

いわき市大工町プロジェクト

ものづくりから始まるまちづくり





株式会社コスマスモア
CSR推進室 室長
浜岡 哲郎

サスモア 2018 発行によせて

3か年計画の中間年度であった2017年度のCSR活動も無事に終了することができましたこと、多くのステークホルダーの皆さんや従業員のみなさんに御礼を申し上げます。

東京五輪開催へ向けた活動が本格化し、関連施設に加え、新規オフィスビルの建設が進むなど建設業界にあっても話題の多い年となりました。一方で企業へは過重労働問題の解決や、官民挙げてのテレワーク月間が実施されて場所を選ばない働き方、平均寿命100歳時代の到来を見据えた80歳まで働くことなど、さまざまな働き方改革が求められた年でもありました。

2017年度はコスマスモアでも自社の取り組みやオフィス構築事業の中で、働き方改革のためのオフィスづくりの提案が強く求められてきました。そうした中で、本年度取り組んだ福島県いわき市大工町の託児サービス付きサンドイッチカフェ「ichi」の設計やプロジェクトマネジメントによる支援活動は意義深いものとなりました。

中期経営計画(2016-18年度)の最終年度にあたる2018年度も社会的責任を果たすことに取り組んだ上で、地域コミュニティへの参画や持続可能な社会へ向けて従業員の意識や知識を高める活動を行います。そして、専門性や技術など本業の強みを活かした社会貢献活動に注力し、皆さまや社会から信頼していただけるよう着実な活動を目指します。コスマスモアらしく、知恵をしぶり、汗をかきながら社会課題の解決に向けて取り組むことで、従業員そして企業が成長していきたいと考えております。みなさまにおかれましては、これまで同様のご支援をいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

CSR活動

2017		
4月 17日	31VENTURES Clipニホンバシ 新装オープン	
5月 28日	SMILE CUP(チャリティフットサル大会)参加	
7月 23日	eco検定試験	
8月 25日 -26日	安全衛生協力会 東北視察	
9月 8日 -9日	陸前高田スタディツアー実施	
20日	託児サービス付きサンドイッチカフェ「ichi」オープン	
10月 12日	港区ゴミ拾い 芝地区クリーンキャンペーン参加	
11月 25日	SMILE CUP(チャリティフットサル大会)参加	
12月 17日	eco検定試験	
2018		
2月 2日	CSR推進室 福島合宿	
15日	港区ゴミ拾い 芝地区クリーンキャンペーン参加	
4月 22日	MIFA Football Park仙台 オープン	



サスモア 2018

デザインのその先を見据え、
新しい価値を創造する

- 04 特集01 クロストーク 枝廣 寿雄 × 荒 昌史
- 08 特集02 デザインが社会にできること
 - ・MIFA Football Park 仙台、WILD BEACH 仙台
 - ・31VENTURES Clipニホンバシ
- 10 特集03 いわき市大工町プロジェクト
ものづくりから始まるまちづくり
- 12 東日本大震災 復興支援レポート
 - ・陸前高田スタディツアー
 - ・安全衛生協力会 東北視察「浜通り地方を訪ねる旅」
 - ・CSR推進室 福島合宿へ
- 14 CSR ビジョンを再考する
- 16 繙続こそ力なり!
 - ・eco検定資格保有率90%超えを保持
 - ・「芝地区クリーンキャンペーン～路上喫煙ゼロのまち!～」に参加
 - ・空間音響商品「R-LIVE (REAL NATURE SOUND LIVE)」の効果検証を実施!
 - ・SMILE CUP(チャリティフットサル大会)
- 17 健康経営オフィスの推進
「働く」ことが「健康」につながる well-beingの実現
- 18 デザインに込めた思い
編集後記
従業員フォトコレクション
- 20 CSR 基本方針

CROSS
クロストーク
TALK

株式会社コスモスモア
代表取締役社長

枝廣 寿雄



荒 昌史

HITOTOWA INC.
代表取締役



これまでコスモスモアは独自のCSR活動を実践し、従業員が本気で環境や社会について考え、会社全体で社会貢献してきました。新しく代表取締役に着任した枝廣もその意思を継承し「CSRと経営は切り離せない」と語る。さらに枝廣は「CSV経営」について今後どのような展開を考えていくのか、10年間コスモスモアのCSRを見守るHITOTOWA INC.代表取締役の荒氏との対談を行ないました。

(聞き手:HITOTOWA INC. 代表 荒氏)



枝廣 寿雄

株式会社コスモスモア
代表取締役社長

1985年にリクルート入社と同時にリクルートコスモス(現 株式会社コスモスイニシア)出向、その後転籍。企画・営業・スタッフと多くの部門の経験があるが、その中でも事業用地の仕込み&事業企画の企画開発部門が長く、横須賀のニュータウンの事業企画など大規模物件に携わる。リーマンショック後は企業再生・資本施策の責任者。2017年6月末より現職。



荒 昌史

HITOTOWA INC.
代表取締役

株式会社コスモスイニシア在籍時代にCSR/CSV専門部署を立ち上げ、サスモアの創刊に協力。2010年にHITOTOWA INC.を創業。コスモスモアが東日本大震災の復興支援として取り組んできた福島県いわき市のコワーキングスペースや岩手県陸前高田市スポーツグラウンド・クラブハウスのデザインに関するコーディネートを行う。

枝廣 寿雄、かく語りき

『デザイン+α』を活かしたCSR活動からCSV経営へ

荒 昌史氏(以下 荒):今日は枝廣さんとじっくりCSV経営についてお話しできるのを楽しみにしてきました。CSVは事業・経営そのものです。本来は日常の業務の中にあるべきものですね。さて本題に入る前に、まずは新たに代表取締役社長に着任された枝廣さんをご紹介したくキャリアについてお聞きします。新入社員時代について教えていただけますか。

枝廣 寿雄(以下 枝廣):実は私、学生時代は通信事業をやりたいと思っており、内定を受けたのはリクルートだったのですが、諸事情あってリクルートコスモス

(現 株式会社コスモスイニシア)に入社することになりました。徐々に不動産という仕事が人生に大きな影響を与える仕事だと気づき、面白いと感じ始めました。今では考えられないですが、入社3ヶ月後には難易度の高い新規物件を担当することになりました。すごく大変でしたが、今思うと自主性を大事にしてもらった新入社員時代でした。

荒:それは大きな経験を得た新人時代でしたね。自主性を大事にする風土は現在でもコスモスイニシア、そしてコスモスモアに脈々と受け継がれてる感じます。



私も入社間もない頃にCSR/CSVを推進する部署を立ち上げさせてもらったおかげで、今があります。新入社員時代からかなり話が飛びますが、コスモスイニシアにて初めて役員になられた時はどんなお気持ちでしたか？そして2017年2月にコスモスモアの代表着任の打診を受けた際はどのように思われましたか？

枝廣：個人的には役員になった時よりも2009年に財務部長になったことが印象的で、経営目線を持つ大きな契機となりました。あの時はリーマンショックの後で、すぐに再生計画を掲げ本格的な立て直しにかかりました。1日も早く再生計画を軌道にのせ、会社をまとめ直したいという無我夢中の気持ちでした。

そしてコスモスモアの代表着任についてはまったく予想していなかったので、とても驚きました。不安な気持ちも多少はありましたが、一日よく考えて翌日の朝一番にお応えしました。

荒：即答に近いですね。すぐに引き受けられた理由は何だったのでしょうか。

枝廣：コスモスモアの事業をどれだけ成長させることができるか、純粋にトップとして責任を果たしたいと思ったからです。大きな方向性を定める責任ある立場ですが、全身全霊をかけてしっかりやつていこうと前向きな気持ちでした。

荒：当時コスモスモアにはどのようなイメージをお持ちでしたか？

枝廣：コスモスイニシアに在籍していた

のでモデルルーム建設事業のイメージが強かったです。しかし、デザインという軸でも広く仕事を受けているのを知つて驚きました。例えばMIFA Football Parkの設計施工といった影響力があるものを作っていて、なかなか面白いと思いましたね。

荒：コスモスモアは「モノづくりにおいて『デザイン+α』の付加価値を提案し実現する」というビジョンを掲げていますので設計施工だけではなく、今後さらにデザインという面でも大いに期待できますよね。本日対談させてもらっているコスモスモアのオフィスもとても素敵な場所です。

枝廣：人々に樂しみを与えるような設計施工、そしてデザインをしていると思います。オフィス事業は、国内のみならず海外の著名なアワードの受賞経験もあるんです。そういうコスモスモアの強みをもっと広めていきたいです。

荒：一方で、コスモスモアの抱えている課題とは一体何でしょうか。

枝廣：改善し、強めていきたいことの1つは、事業について考えられる人材に成長してほしいということです。将来を見据える、時代を捉える、そして事業をつくる、力強く推進する、そんな人材がたくさんいる会社にしていきたいと思っています。もう1つは、建築の技術力です。

具体的には大手クライアントからはもつ

と高層の建物をつくってほしいというニーズがあるので、それにきちんと対応できるよう努力していきたいです。クライアントからのニーズは事業発展の大きなヒントですから、コスモスモアのよい特徴であるクライアント目線、クライアントとの良好な人間関係を活かして、技術力を高めていきたいですね。

荒：人材育成のお話が出ましたが、これまでのコスモスモアのCSRの取り組みは従業員教育の側面が強かったですね。CSR/CSVについて継続性をもって取り組んでおり、素晴らしいと感じます。継続は力なりを体現している会社です。

枝廣：これまででもCSR/CSVについて様々な取り組みがありました。特に陸前高田スポーツグラウンドプロジェクトは大きな成果だったと感じています。今も地元の方が楽しんで活用してくれており、嬉しい限りです。夏に訪問した際に子どもたちが元気にボールを追いかけていた姿を見て、とても感激しました。

荒：陸前高田ではコスモスモアの名前を知っている方も多いですから、何度も通い対話を重ねてクラブハウスをつくれられた経験は地域密着そのものでした。それからeco検定の取得もずっと活発ですね。

枝廣：現在、従業員の取得率は89%で、あと1人合格すると90%です(2017年12月時点)。私も7月に合格しましたが、これま

で持っていた断片的な情報が整理された感覚がありました。社会人として持つべき資格であると認識しています。

荒：eco検定は、ecoという言葉の意味にとらわれず社会的な知識が必要ですよね。枝廣さんは91点と高得点だったそうですが、実は私も91点でしたので親近感を覚えました。日頃からどのように情報収集をされているのでしょうか。

枝廣：特に意識はしていないのですが、環境問題には興味があったので頭に入っつきやすかったです。新聞やニュース、書籍の情報が基礎として役立ったように思います。

荒：eco検定を通じて自然環境も企業にとっての重要なステークホルダーであることを理解した上でCSR/CSVに継続的に取り組んでいけば、コスモスモアのさらに良き風土を築き上げていくでしょうね。今後の方向性については、どのようにお考えですか。

枝廣：これまでの取り組みは点だったのでプロジェクトを面で広げていきたい、つまり事業にしていきたいです。例えば、あるビール会社は震災後に風評被害にあった果物農家と商品開発の事業に取り組み、売上だけではなく、雇用や生産性も高めたという事例があります。

どうやったら、そういうレベルの事業ができるかを考えていきたいです。

荒：まさにCSVですね。企業の存在価値を高める取り組みになりそうです。推進するためには何が必要でしょうか？

枝廣：そのために経営・マネージャー層との議論と教育の必要性を感じています。業績や数字だけに偏るのではなく、CSR/CSVを原点に置く意識の改革が必要です。また、CSR/CSVを進めることができが目的になると、つい色々なものに手を出しがちになるので、選択と集中を推進していきます。そして、真に社会・環境に良い事業をつくることが最大の目標です。

荒：CSVは事業・経営そのものと冒頭述べました。それはもちろん新規の事業という意味ではなく既存の事業にも言えることです。つまり、既存事業にてできること、やるべきことは実はたくさんあるはずです。コスモスモアのCSV事業には、どのような可能性があると感じていますか。

枝廣：オフィス事業を通して人々の健康に貢献できるのではないかと考えています。ストレスを軽減し、人の五感にプラスの影響を与えるような設計デザインがCSV事業につながっていくと思いま

す。働き方改革をはじめ、時代背景と未来予測を踏まえて、コスモスモアの強みを活かしていきたいです。

荒：CSVを突き詰めていくと世界基準の事業となり、グローバルへのさらなる展開にもつながりますね。先ほど枝廣さんもおっしゃっていましたが、将来を見据えて時代を捉えれば、国内基準ではなく世界基準で社会環境をよくしていく企業だけが生き残るということに自ずと気がつくと思います。世界に羽ばたくコスモスモアの将来のための鍵は何でしょうか？

枝廣：未来を予測して、これからのニーズを探ることが大事です。リサーチ＆デベロップメントを部署ごとに行うだけでなく会社全体でも行って、コスモスモアの経営の基軸を作りたいですね。リサーチ＆デベロップメントにはとても力を入れていくべきだと考えています。その先鋒隊としてCSR推進室メンバーがいると捉えています。CSVは世界基準で考えたときの常識ですから。将来の勤務形態や住まい、暮らし方など、将来の世界を想像し、そこから事業を考えられる会社に成長していきたいです。



音楽とフットボールによるコミュニケーションが生まれる「場」

三井不動産SPORTS LINK CITY FUN-TE! (ファンテ!)内 「MIFA Football Park 仙台」 「WILD BEACH 仙台」 2018年春OPEN!!

宮城県仙台市「三井不動産SPORTS LINK CITY FUN-TE! (ファンテ!)」内に、音楽とフットボールを通して「東北エリアの心と笑顔が通い合う場所」を目指すフットボールパーク施設「MIFA Football Park 仙台」及び「WILD BEACH 仙台」が2018年春にオープンします。当プロジェクトにおける施設の建設は、新豊洲の「MIFA Football Park」について2箇目となります。今回もコスモスモアが施設の設計施工を担当し、MIFAに関わる全ての施設は当社だけがデザインしています。



MIFAとは

MIFAとは「Music Interact Football for All」の意味で、Mr.Children桜井和寿とGAKU-MCのユニット「ウカスカジー」が所属し、音楽とフットボールを通じて様々なコミュニケーションを創造していくことを目的とした団体です。「MIFA Football Park仙台」は、音楽とフットボールを通して「東北エリアの心と笑顔が通い合う場所」を目指しています。

また、今回の「MIFA Football Park仙台」の誕生によって、地域や世代、性別を超えた音楽とフットボールを通じたコミュニケーションが生まれ、人と人が繋がっていくことを通して、東北エリアのスポーツ振興、地域活性化、震災復興を目指しています。

「目的としての場」ではなく、「つながり」をデザインする

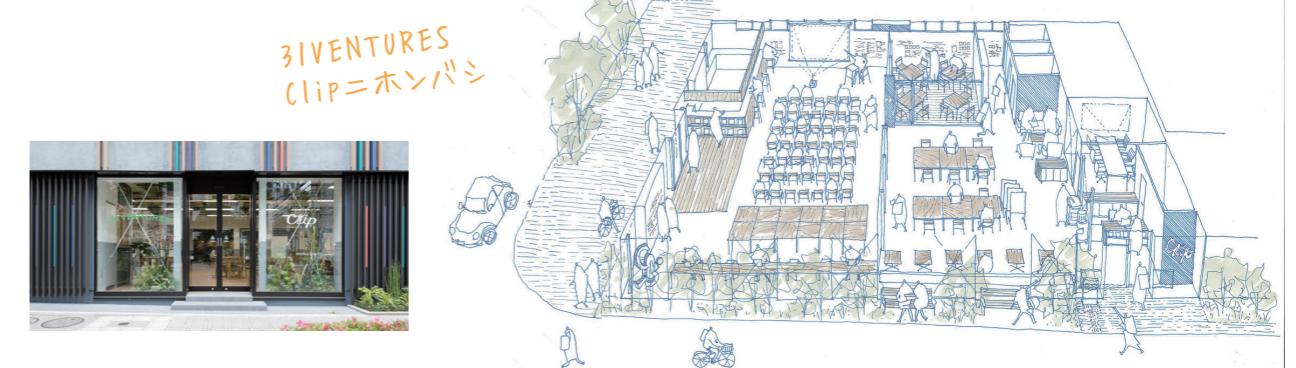
コスモスモアでは、2014年より当プロジェクトに参加し、新豊洲にオープンしている「MIFA Football Park」の設計施工も全て担当しています。コートを眺めながら利用できるカフェスペースでは、ライブやイベントが定期的に開催され、フットサルをしに来たり人だけでなく、世代や性別を超えたつながりが生まれています。仙台にオープンする「MIFA Football Park」でも、音楽とフットボールを通じた様々なコミュニケーションが生まれることを願っています。



ビジネスの創造・拡大を目指す人同士を結び、オープンイノベーションを実現する

31VENTURES Clipニホンバシが新装オープン

三井不動産株式会社が手がけるコワーキングスペースの一つ「31VENTURES Clipニホンバシ」が、さらなる利用者拡大、利便性向上、オープンイノベーションへの取り組み強化を目指し中央区日本橋本町3丁目に移転、新装オープンしました。コスモスモアはその空間設計を担当し、これまでの蓄積を生かし、新しい働き方や新しいビジネスの創り方が生まれる「場」を実現しています。



『デザイン+α』

さまざまな交流から生まれる「新しい刺激」や
人をクリエイティブにする様々な「仕掛け」



ワーキングスペースは外部から様子が伺えるようにし、セミナーなどへ気軽に参加出来るようなファサードにしました。また、大テーブル、ラウンジソファ、窓際スタンダードテーブル、外部ベンチを配置することで、多様な働き方に対応出来るような場所づくりを目指しました。



セミナースペースはガラス引戸とし、閉じても視界を遮らない気配を感じられる空間デザインにしています。さらに、一体利用出来るようにし、家具は多様な組み合わせ可能な移動式となっています。



外周部では、日本に古来よりある樹種や地域で見かける樹種を自然に近い多品種植えし、建物内外の人が寛げる休憩ベンチのあるランドスケープとしました。また、2階と3階のフロアでは国産材フローリングを採用しています。

設計者
の思い

利用者/運営者
の思い

移転前のオフィスよりも、視認性やアクセス性が向上しました。

大企業の会社員が多い日本橋エリアの中で異色の施設であり、これまでにない面白い取り組みが行われていると思います。

利用者の年齢は20代～50代まで幅広く分布しており、一部ではありますが、女性の起業家の方々にもご利用いただいている。

「デザイン+α」がつくる人の「つながり」

福島県は、これまでコスモスマアとして継続的に訪問と対話、プロボノ参画や次の支援への模索を重ね、つながりを深めてきました。2013年にはNPO法人TATAKIGE Japanが運営する、福島県いわき市の起業家支援コワーキングスペースの立ち上げ支援をさせていただき、グッドデザイン賞を受賞しました。復興支援をきっかけに、地域活性化のための課題解決に継続して携わっています。



model case いわき市大工町プロジェクト ものづくりから始まるまちづくり

まちへ波及する デザインの力

昼間の人通りが少なくなったいわき市大工町を、現代の「ものづくり」でまちを再生するプロジェクト。公園を中心とした道路などの公共資産、空き店舗、駐車場などの民間不動産など、まちの資源を活用し、人の賑わいやコミュニケーションの創造を目指しています。そのために、コスモスマアは、デザイン力やノウハウの蓄積を最大限生かし、まち全体のデザインの一端を担っています。



いわき市初の託児サービス付き サンドイッチカフェ「ichi」がオープン

いわき市で子育てをするママの声から、子育てと働くが伸び伸びと共に存できる場を目指してつくられた、託児サービス付きサンドイッチカフェ「ichi」。当社は、「いわき市大工町プロジェクト」の第1号拠点として、設計やプロジェクトマネジメントに携わってきました。いわき駅前徒歩5分の場所にある大工町の物件をリノベーションし、2017年9月にオープン。すでに、地域の作家さんによるワークショップの開催がされるなど、女性や子どもを中心にも「ものづくり」を通じたつながりが育まれ始めています。



『デザイン+α』

女性が、子育てと仕事を 両立するための 工夫と仕掛け

託児スペースを併設し、子どもを預けながら働くということを可能にしています。託児スタッフも子連れの保育士さんが多く、自分の子どもを連れてきてても良いという条件で募集をしました。そのため、働く女性のほぼ全員が子どもを連れて出社しています。

地域雇用創出のため、 「ものづくり」の作家さんを 集めるための工夫と仕掛け

大工町パークフェスというイベントを定期開催し、現代のものづくりで地域をリプランディングしていくことを目に見える形で発信しています。このイベントに出店する作家さんたちが、「ichi」のワークショップの講師役を担ってくれています。

事業が周辺地域へと 展開していくための 工夫や仕掛け

「ichi」の目の前の公園や道路を、公民連携事業で歩行者のための空間にリノベーションして、まちの核としての再生を試みています。公共不動産の再生が進むと、公園周辺地域への入居希望者が増え、不動産の価値が向上していきます。実際、「ichi」のオープン後には、新規店舗が2件改装を始めました。



利用者の層と 主な利用目的

カフェには、女子高生からお年寄りまで幅広い年代の方が来店されます。託児所が併設されていることで、子育て中のママさん達も見守り託児を利用しながら、カフェで食事をしたり、ワークショップに参加したりできています。また、完全託児利用も可能なので、子育て中に自分の時間を持つことができる環境ができつつあります。



東日本大震災 復興支援レポート

2011年の岩手県陸前高田市でのボランティア活動をきっかけにスタートした東日本大震災復興支援。今年も従業員スタディツアー、協力会社との東北視察ツアー、CSR推進室の福島合宿を行いました。



コスモスモア東北視察 「陸前高田スタディツアー」

9月8日9日の2日間に渡り、コスモスモア従業員向けの「陸前高田スタディツアー」を実施しました。このスタディツアーは、コスモスモアの従業員全員が被災地を知り、支援することを目的として、毎年各部署から30名程度が訪れており、今回で4度目になります。各部署より32名の従業員が参加し、高田大隅つどいの丘商店街、高田松原の震災遺構、慰靈堂復興センター、一本松、仮設住宅、陸前高田スポーツグラウンド・クラブハウスなど、2日間かけて視察しました。

最初に訪れたのは、「タピック45(道の駅高田松原)」という震災遺構。震災当時のままの瓦礫が残った施設内、津波でなぎ倒された鉄塔や、沖にあったはずの打ち上げられた牡蠣の養殖網。海に近かったこの場所は、津波の恐ろしさを今でも感じさせます。

震災遺構は、次世代に向けて、震災が起きたという記憶や教訓のために残す決断の一方で、地域の人にとっては、思い出したくない辛い記憶を残すことでもあります。それでも、「住民がこれから的人生・生活で前を向いていくためにも、誰も人が亡くなっていない施設を震災遺構として残すことを決めた」と語る伊藤さんの言葉は強く、参加した従業員は真剣な眼差しで話に耳を傾けていました。

そして陸前高田市、戸羽市長からのお話では、ハード面の復興が進む一方で「一人ひとりの復興」つまり目に見えない心の課題が、まだまだ大きく残っているという被災地の現状についてお話をありました。それでも「自分たちと同じような思いを二度として欲しくない」とひとつひとつ丁寧に語ってくださった言葉をきちんと受け止め、私たちが次につなげていくことが大切です。

陸前高田スポーツグラウンドでは、コスモスモアが設計・企画監修を行った陸前高田スポーツグラウンド・クラブハウスへの防腐剤コーティング作業の他、陸前高田FCの子ども達と一緒にサッカー・フットサルを通じた交流を行いました。

地元の木材を利用して2年前に建設されたクラブハウス。少し風化した木材に防腐剤を塗りながら、建設に至った経緯や背景、プロジェクトが継続していくことの意味を改めて感じることができました。

クラブハウスが見違えるように綺麗になった後は、目の前に広がる天然芝のグラウンドで、陸前高田FCの子ども達と一緒に、サッカー・フットサルをしながら防災減災を体感するワークショップ「ディフェンス・アクション」を行いました。

問題として出された「防災備蓄品」に関する言葉を、ジェスチャーのみで次の走者に伝えていくゲームでは、創意工夫溢れるジェスチャーで大人も子どもも必死になって相手に伝えようとする姿が印象的でした。

立場や年齢、性別関係なく一緒に楽しみ、共助を学ぶ「サッカー」の魅力、その場を提供したことの社会的意義。被災地での「遊び場不足」という課題から生まれたグラウンドですが、その場所があることで交流が生まれ、今の日常が当たり前でないことを再認識できるきっかけになりました。今後も、従業員の理解と協力を得て、復興支援を進めています。



安全衛生協力会 東北視察 「浜通り地方を訪ねる旅」

復興支援をつづける輪をさらに広げていきたいと考え、2015年度から実施している協力会社との東北視察ツアー。今年度も、8月25日26日の2日間に渡り、コスモスモア安全衛生協力会事務局主催で、協力会社と福島県いわき市視察を行いました。協力会社21社の代表・役員を中心に31名が参加し、当社代表の枝廣を始めとする役員・部次長9名を加えた合計40名での旅となりました。四ツ倉では、環境型温室栽培施設を見学し、富岡町では、被災者の言葉で震災を後世に語り継ぐ「NPO法人富岡町3.11を語る会」の語り部ガイドの方に、4つの地域を案内してもらいました。2017年4月に帰還することができるようになり、「復興」への長い道のりが始まったばかりの富岡町。震災から6年半を迎えた今、改めて自分たちにできることは何か、自問自答するきっかけとなりました。



CSR推進室 福島合宿へ

CSR推進室メンバーで、福島県いわき市へ視察を行いました。福島県は、復興支援の中でも、プロボノとしてコワーキングスペースの立ち上げに参画するなど、コスモスモアが継続的に訪問と対話を重ねてきた地域です。今回は、CSR活動からCSV経営へと進化させていく中で、今後どのように東北創生支援に協力していくのか?という観点でこれまでのつながりを通じ、現地企業の皆さんにヒアリングを行いました。

まず、「いわきおてんとSUN企業組合」が取り組むオーガニックコットンプロジェクトの視察を行いました。

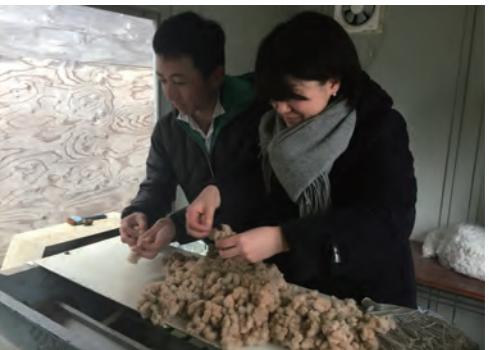
いわきおてんとSUN企業組合とは、復興への思いや福島やいわきの未来ビジョンを共有し、市民自らが、市民のために行う地域づくりを協働し、実践していくために立ち上がった企業組合です。

今回は、地域に活気と仕事を生み出すことを目的とし、綿を有機栽培で育てて収穫されるコットンを、製品化・販売する一連の取り組みを視察体験し、代表を務める吉田恵美子さんにお話を伺いました。ものづくりの過程で生まれる人と人との「つながり」を通して、生産者を支援できる仕組みは、今後のCSR/CSVを事業として考える上で重要な視点となりました。

その後、いわきスポーツクラブが運営する商業施設複合型クラブハウス「IWAKI FC PARK」の見学へ向かいました。

IWAKI FC PARKは、「スポーツを通じていわきを東北一の都市にする」というビジョンを掲げるいわきFCのホームグラウンドとして誕生しました。市民が気軽に立ち寄ることができ、選手を身近に感じることのできる設計となっており、スポーツを通じて感動や夢といった活力をいわきの人たちに与えるというコンセプトです。スポーツ×デザインが、人と人のコミュニケーションをつくり、つないでいくことの可能性を改めて感じた視察となりました。

そして最後は、いわき駅前の復興飲食店街「夜明け市場」にて夕食を頂き、福島合宿を終えました。





CSRビジョンを再考する

サスモアも本号で11周年を迎え、新たな10年をスタートさせました。2014年から「本業を通じたCSR活動への転換」をスローガンとして掲げ、復興支援を中心に様々な活動を行なってきました。経験やノウハウ、そして人と人のつながりが蓄積された今、CSRビジョン改定に向けてワークショップを開催しました。

発散した様々な思いを収束し、具体化へ

前号のサスモアでは、10周年を記念し「CSR活動のこれまでとこれからを考えるワークショップ」を開催しました。そこでは、これまでの振り返りとこれからの10年への期待を、GOOD(よくできたと思うこと)とMORE軸(もっと出来たんじゃないかと思う事)に分けてグルーピングし、発表しました。GOOD軸では、「プロジェクトの継続性」や「社内風土」への評価、MORE軸では、「CSRからCSVへの転換」、「新しい価値の創造」、「働き方の改善」などが挙がりました。



START

戦略的CSR=CSVを掘り下げる

STEP.1

今回は、これまでの10年から受け取ったバトンを引き継ぎ、これから CSR ビジョン策定のためのワークショップを行いました。

これまで続けてきた CSR/CSV の取り組みを、今後はより事業として展開していくために、「CSV を推進していく上での制約や課題」を整理し、「どのような社会課題に向き合うべきか」を HITOTOWA INC. 代表取締役の荒 昌史氏をファシリテーターに迎え、CSR 推進室メンバーで話し合いました。



コスモスモアの強みを知る

STEP.2

まずは、インスピレーショントーク。コスモスモアの強みを一人ずつ出し合い、大きく3つのキーワードが挙がりました。

1つ目は、社会に影響のある先進的なものを作ってきた「デザイン設計力」。2つ目は、顧客との距離が近く、寄り添って課題を解決し達成する「プロジェクト推進力」。そして3つ目は、社内外でのコミュニケーションが活発な「連携力」です。「デザイン」と「人のつながり」という強みが、明確になりました。

強みを活かすための課題を知る

STEP.3

次に、コスモスモアの強みを生かし、顧客創造を目的とした「攻めのCSR=CSV」を推進していくための制約や課題について整理をしました。

課題としては、顧客のその先のニーズまで見通す力、つかったその後の利用状況や課題解決の把握などが具体的に挙がりました。また大きな部分としては、世の中の課題感の把握や事業領域を超えた外部知見の収集、そして業界外への情報発信力といった一人ひとりが視野を広げていくことの重要性、その先に企業戦略としてのCSV事業があることを理念として共有しました。理念の共有ができたところで、コスモスモアとして「どのような社会課題に向き合うべきか」の議論に移りました。顧客が抱える課題が多く挙がった一方で、事業領域を超えた社会課題については少なく、外部とのつながりを持ち視野をもっと広げていく必要があることを再認識しました。

CSRビジョンの改定に向けて

STEP.4

CSR推進室福島合宿とワークショップを経て、CSRビジョンの改定に向けた検討を行いました。

コスモスモアは、これまで行ってきた継続的な活動やつながりを大切にしながらも、「選択と集中」、「リサーチ&デベロップメント」を推進し、本業を活かした社会と共有できる価値の創造を目指していきます。そしてCSR基本方針を、より戦略的CSR(CSV)に重点を置いた方針へと改定しました。

CSR基本方針の変更点

変更前	変更後	~本業を通して社会の課題を解決する~											
<p>make Social Impact</p> <table border="1"> <tr> <td>コト 社会と会社の持続可能な関係づくり</td><td>企業価値の向上 本業を活かした社会と共有できる価値の創造</td></tr> </table> <p>act Social Good</p> <table border="1"> <tr> <td>モノ 「社会課題解決型商品」の開発および販売</td><td>コスモスモア独自の経営ビジョン ・「デザイン+α」の付加価値を提供 ・人々の快適な生活の場の創造 ・安心・安全にこだわった資産の持続可能性の追求 ・優位性ある仕組みを創造と生活の場への環境価値の実現</td></tr> <tr> <td>ヒト 「従業員の成長と動機付け」をメインテーマとした誠実・公正な企業活動</td><td>企業としての基本的な経営ビジョン ・強固なコーポレート・ガバナンス ・法令遵守とリスク管理の徹底 ・健全な財務基盤の構築 ・ユニバーサルデザイン (人権/働きやすい環境/障がい者雇用)</td></tr> </table>	コト 社会と会社の持続可能な関係づくり	企業価値の向上 本業を活かした社会と共有できる価値の創造	モノ 「社会課題解決型商品」の開発および販売	コスモスモア独自の経営ビジョン ・「デザイン+α」の付加価値を提供 ・人々の快適な生活の場の創造 ・安心・安全にこだわった資産の持続可能性の追求 ・優位性ある仕組みを創造と生活の場への環境価値の実現	ヒト 「従業員の成長と動機付け」をメインテーマとした誠実・公正な企業活動	企業としての基本的な経営ビジョン ・強固なコーポレート・ガバナンス ・法令遵守とリスク管理の徹底 ・健全な財務基盤の構築 ・ユニバーサルデザイン (人権/働きやすい環境/障がい者雇用)	<p>make Social Impact</p> <table border="1"> <tr> <td>コスモスモアのCSV経営</td><td>戦略的CSR(CSV) 社会課題を解決する仕組みづくりと実行 本業を活かした社会と共有できる価値の創造</td></tr> </table> <p>act Social Good</p> <table border="1"> <tr> <td>コスモスモアのCSV経営ビジョン</td><td>社会貢献活動 ・「デザイン+α」の付加価値を提供 ○人々の快適な生活の場の創造 ○安心・安全にこだわった資産の持続可能性の追求 ○優位性ある仕組みを創造し 環境価値を生活の場へ実現</td></tr> <tr> <td>自らが社会に及ぼす影響への責任</td><td>社会と会社の持続可能な関係づくり ・強固なコーポレート・ガバナンス ・法令遵守とリスク管理の徹底 ・健全な財務基盤の構築 ・ユニバーサルデザインの実現 (人権/働きやすい環境/障がい者雇用/環境問題への取組/地域コミュニティへの参画)</td></tr> </table>	コスモスモアのCSV経営	戦略的CSR(CSV) 社会課題を解決する仕組みづくりと実行 本業を活かした社会と共有できる価値の創造	コスモスモアのCSV経営ビジョン	社会貢献活動 ・「デザイン+α」の付加価値を提供 ○人々の快適な生活の場の創造 ○安心・安全にこだわった資産の持続可能性の追求 ○優位性ある仕組みを創造し 環境価値を生活の場へ実現	自らが社会に及ぼす影響への責任	社会と会社の持続可能な関係づくり ・強固なコーポレート・ガバナンス ・法令遵守とリスク管理の徹底 ・健全な財務基盤の構築 ・ユニバーサルデザインの実現 (人権/働きやすい環境/障がい者雇用/環境問題への取組/地域コミュニティへの参画)
コト 社会と会社の持続可能な関係づくり	企業価値の向上 本業を活かした社会と共有できる価値の創造												
モノ 「社会課題解決型商品」の開発および販売	コスモスモア独自の経営ビジョン ・「デザイン+α」の付加価値を提供 ・人々の快適な生活の場の創造 ・安心・安全にこだわった資産の持続可能性の追求 ・優位性ある仕組みを創造と生活の場への環境価値の実現												
ヒト 「従業員の成長と動機付け」をメインテーマとした誠実・公正な企業活動	企業としての基本的な経営ビジョン ・強固なコーポレート・ガバナンス ・法令遵守とリスク管理の徹底 ・健全な財務基盤の構築 ・ユニバーサルデザイン (人権/働きやすい環境/障がい者雇用)												
コスモスモアのCSV経営	戦略的CSR(CSV) 社会課題を解決する仕組みづくりと実行 本業を活かした社会と共有できる価値の創造												
コスモスモアのCSV経営ビジョン	社会貢献活動 ・「デザイン+α」の付加価値を提供 ○人々の快適な生活の場の創造 ○安心・安全にこだわった資産の持続可能性の追求 ○優位性ある仕組みを創造し 環境価値を生活の場へ実現												
自らが社会に及ぼす影響への責任	社会と会社の持続可能な関係づくり ・強固なコーポレート・ガバナンス ・法令遵守とリスク管理の徹底 ・健全な財務基盤の構築 ・ユニバーサルデザインの実現 (人権/働きやすい環境/障がい者雇用/環境問題への取組/地域コミュニティへの参画)												

継続こそ力なり！

コスモスモアではより良い社会や環境のために、従業員一人ひとりが行動を積み重ねてきました。シーズ支援のための寄付、環境負荷低減など、全社的な活動や各事業部の取り組みをご紹介します。



eco検定資格保有率90%超えを保持

コスモスモアでは、従業員一人ひとりが環境への配慮を意識しながら事業を推進していくことが必要不可欠だと考え、eco検定の取得を推奨しています。試験対策として、CSR推進室メンバーが受験対象者に模試を実施し、合格までを手厚くサポート。7月と12月の試験で16名が合格。eco検定推進企業として、全従業員でのeco検定資格保有率90%超えを保持しています。



「芝地区クリーンキャンペーン～路上喫煙ゼロのまち!～」に参加

2017年10月12日と2018年2月15日「芝地区クリーンキャンペーン～路上喫煙ゼロのまち!～」にコスモスモア有志、CSRメンバー含む合計22名が参加してきました。今回コスモスモアのメンバーが担当したのは、ゴミ拾い。いつもランチでお世話になっているお店が立ち並ぶ通りを中心に、清掃活動をおこないました。きれいに見える街でも、思いのほか多くのゴミを拾うことができました。これからも地域への感謝の気持ちを忘れずに、積極的にこのような地域活動に取り組んでまいります。



空間音響商品「R-LIVE(REAL NATURE SOUND LIVE)」の効果検証を実施!

「自然の音を日常に」をコンセプトとし、森や川、波など自然界の音をオフィスや住宅で高品質に再現する空間音響商品、「R-LIVE(REAL NATURE SOUND LIVE、アールライブ)」より快適な空間デザインの新たな要素として、2017年1月10日から提供を開始しています。また、同商品が人の自律神経に与える効果検証を行ったところ、R-LIVEを聴くことで緊張が緩和され、リラックス効果の実現が期待できることが分かりました。働く場が健やかな状態を目指して、今後も新たな取り組みに挑戦してまいります。

SMILE CUP(チャリティフットサル大会)

住宅に関わる企業や団体が集まるチャリティフットサルイベント「SMILE CUP」。今年度は5月28日と11月25日に開催されました。各社対抗リーグ戦では、白熱した試合が繰り広げられ、至るところで歓声が上がり、グラウンドは熱気にあふれています。また、参加費の一部が「陸前高田スポーツグラウンドづくりプロジェクト」に寄付される本イベントでは、サッカー防災ワークショップ「ディフェンス・アクション」も実施。寄付をするだけではなく、「防災減災」と「共助」について自らが考える良い機会となりました。

寄付先

陸前高田スポーツグラウンドづくりプロジェクト



健康経営オフィスの推進



「働く」ことが「健康」につながる well-beingの実現

「健康を保持・増進する行動を誘発することで、働く人の心身の調和と活力の向上を図り、ひとりひとりがパフォーマンスを最大限に発揮できる場」経済産業省は、健康経営オフィスをこのように定義し推奨しています。オフィスコンサルティングをサービスとして提供している当社では、従業員が「仕事もプライベートも活発に取り組める環境」を整えるため、様々な取り組みを行っています。



MOREホリデー

MOREホリデーとは、3日以上連続して(休日をはさんでも可)有休暇を取得すると、年間1回に限り「MOREホリデー手当」が支給される制度です。他にも、有給取得促進日やメモリアル休暇など、様々な制度を設けています。それぞれ取得する従業員も増えており、MOREホリデーの取得率が8割を超える事業部もあります。

早起きプロジェクト ～早起きはワンコインの得～

従業員の早朝出社の促進、夜の残業削減を目的とし、早朝出社をすると褒賞が得られる制度を設けました。基本ルールは、「朝食代」×「部会の朝方推進」=朝型促進。対象時間内の勤務で朝食代の支給を行う他、朝部会の開催1回ごとに福利厚生費を支給することで、業務効率や生産性向上だけでなく、生活習慣の改善や健康増進にも効果が得られます。

公認部活・ 同好会プロジェクト

事業部間交流の活性化、健康及び自己啓発の促進のため、公認部活・同好会プロジェクトが発足しました。5人以上かつ2事業部以上またがるメンバーが加入すること、継続的であることなどを運用ルールとし、活動費に対して補助金が支給される仕組みになっています。現在、肉体改造部やフットサル部が立ち上がり、活動を通して交流を深めています。



各種 有給休暇の 取得率

■ MOREホリデー 取得率

	総人数	累計	取得率
総計	180	115	63.9%

※2017年4月～2018年1月

■ 有給取得促進日 取得率

	総人数	累計	取得率
総計	180	141	78.3%

※2017年4月～2018年1月

■ メモリアル休暇 取得率

	総人数	累計	取得率
総計	143	134	93.7%

※2017年4月～2018年1月

サスモア2018 デザインに込めた想い

サスモアの表紙に描かれているのは、
「鳥の目」から見るまちの姿。

そこに広がるのは、これまで一人ひとりが大切に育んできた
人と人とのつながりの和。

「デザイン+α」が生み出すコミュニケーションの場は、
オフィスだけでなく人々の暮らしへと展開しています。

一人ひとりが広い視野を持ち、
デザインのその先を見据えることで、
本業を活かした、社会と共有できる
価値創造を目指していきたい。

そんな想いをデザインに込めて、
サスモア 2018 をみなさまに
お届けします。



編集後記

本誌「サスモア」も11冊目となり新たな10年の始まりです。
人と人との「つながり」を生む場所のお手伝いをさせていただきました。今後も本業を活かし社会の価値の創造に寄与してまいりたい
と思います。(小川将克)

発行人:枝廣寿雄
編集人:安藤晶子、大野竜太、小川将克、
浜岡哲郎、原田真友子、松井伸城

